

中京女子大学

同窓会ニュース

1993. 11. 1 No.11

■発行 中京女子大学同窓会

〒474 愛知県大府市横根町名高山55
TEL. 0562-48-1291

第10回同窓会総会日程のお知らせ

第10回中京女子大学同窓会総会日程が決まりました。今回の総会は、平成四年に実施の予定が、やむなき事情で開催出来ませんでした。平成七年には、開校90周年記念事業にも同窓会として、皆様方のご協力を頂かなければなりません。大勢の友達をおさそい下さいまして、ご出席下さいますようお願いしております。

日 時 平成5年11月28日(日)
AM11:00~PM3:00
場 所 みかど ☎(0562)48-0220
会 費 5,000円
交通案内 JR大府駅下車 徒歩3分

同期会開催

このたび、中京女子大学同窓会開催に因り同期会(短家、短体、大体)を、二次会として計画致しました。

この機会に是非御参加下さい。会場の都合もありますので御出席の方は、各科責任者までご一報下さい。

- 日時 平成5年11月28日(日)
同窓会閉会后3時頃
- 場所 中京女子大横(二ツ池)
チャールストン(茶店)
☎0562-47-2851

〈連絡先〉

- 短家(40年度卒) 二村 泰子(旧姓 樋口)
〒470-32 知多郡美浜町大字小野浦字東川36-4
☎05698-7-1727
- 短体(40年度卒) 片桐 勝子(旧姓 福本)
〒474 大府市北田町正官田23の9
☎0562-47-7420
- 大体(42年度卒) 円山日出代(旧姓 原田)
〒509-77 岐阜県恵那郡明智町本町1282
☎057354-2005



会長 高橋 知予子
(昭和33年度
短期大学部体育科卒)

ごあいさつ

不屏の香りの漂う頃となつてまいりました。中京女子大学同窓生の皆様には、お健やかにお過ごしのことと存じます。「平成」の年号とは裏腹のような歴史的な大きな変動が、国の内外を問わず、政治の世界にも、自然の世界にも続いております。「平成」になるための変動であるやもしれませんが、どうすることも出来ない流れなのでしょうか。

さて同窓生の皆様、本学も創立90周年という輝かしい年を迎えようとしております。記念事業もあり、こぞって取り組まなければなりません。母校中京女子大学も幾多苦難の道乗り越え、大学の発展はもとより、昨年は大学院が設置され、大いなる躍進を遂げることができました。21世紀に向け、飛躍と活力溢れる大学として搬出する為にも、今こそ本学で培われた知・徳・体を生かさなければなりません。建学の精神を大いに発揮し、女性の自立を目指し、常に新しい情報を得て、自己を高め、有用なる日本婦人として、前進しなければならないと思います。

同窓生もまた一丸となって、創立90周年行事を成功させるべく努力し、強靱なる御支援をいただきたいと存じます。終りに、望みまして母校の発展と、皆様の御健勝と御活躍をお祈り致します。



副会長 福江 昭子
(昭和29年度
短期大学部家政科卒)

母校の発展

技術革新に伴う社会構造の変動によって、われわれ人間生活の環境も大きく変わり、意識や価値観も多様化してきた。教育研究の場である「大学への期待」は、社会的背景がいかに変わっても、諸方面の活力を維持し、世界に貢献できる学術振興・人材養成である。これを担う大学の役割が重要となってくる。そんな中、多くの大学では社会の各方面で活躍し得る人材の養成、時代の変化や学術の新たな発展に対応し得る能力を持つ者の育成に努めたり、社会人教育のニーズの拡大に伴い、いろいろな方法で学習機会を提供している。

母校中京女子大学では現代社会が求める大学のリストラ（再構築）に力をそそいでいる様子を目にした。それは、文部省が1994・1995年度の大学の新設・改組を大学設置審議会に諮問したことが報道機関に発表されたときであった。

母校の新しい改組学部は健康科学部と人間関係学部であった。まさに世界に貢献しうる人材養成にぴったり当てはまった学部と、心秘かにほほえんでいた次第である。健康科学部では、スポーツ・栄養学からなる身体の健康および自然科学・社会科学の研究を極めることになろう。また人間文化学部では、児童学・アジア文化学を中心とした人間文化にかかわることを科学するであろう。

この人間文化は、私が長年手掛けている研究にもしばしば登場してくるが、昨夏研究調査に入った山形県の飯豊山（いいでやま）山麓の山間一集落は、「地域社会と人間生活文化」について力を入れ、集落全体の人が、地域にそくした人間文化を前提にして、その保存維持がうまくできていた。第三者へと伝達も、努力のあとが伺えた。それは大人だけではなく、小学生達も文化の担い手の認識が強かったのが、印象的であった。

こんな中、母校の発展はめざましい。多くの先輩諸姉が築いた女子専門学校時代、戦後の学制改革で生まれた短期大学・四年制大学、最近の大学院設置と歴史のページは増えている。ここから世界に貢献できる人材も排出されよう。

創立90周年に向けて



学長 谷岡郁子

明治38年に故内木玉枝先生が、本学園の礎のお作りになられてから早いもので、再来年には創立90周年を迎えます。この間、幾度となく繰り返された戦争や世界大恐慌など先輩諸師の皆様には想像絶するご苦勞がございましたことと拝察申し上げます。

それから幾星霜が過ぎ、日頃は気に止めず雑用に追われておりますが、本当に平和な日々を私達は送れるようになりました。今年は、冷夏、長雨で記録的な大凶作と言われておりますが、稗や粟を食べなければいけないと思う方は誰もいらっしゃらないと思います。安売りの米がなくなり、高いか、あるいは味はわからないが輸入米を食すればなんとかなるという消費者が殆どで、飢えを念頭に置く者は皆無ではないでしょうか。本当に豊かでそして平和なのだと思いたします。

キャンパスに目を向けると、今年で大府へ移りちょうど30年となり、節目の第30回大学祭が10月10、11日に実施されました。年々来校される方も増え、在学生はもちろん、卒業生の方もよちよち歩きの子どもさんを連れ、素晴らしい笑顔をたたえて幸福な母の顔で母校を訪れてくれました。「学長先生、見て、見て、うちの子、私そっくりでしょ!」などと声をかけてくれる卒業生に私はこの上もない幸せを感じました。

仕事に情熱を傾ける方も年々多くなり、海外で活躍される卒業生からの便りをいただいたり、また、卒業生の就職先から、「いい子を紹介してもらったから、今年も送って下さい。」とおっしゃっていただくようになってまいりました。

このような卒業生の方の活気がそのまま同窓会の活力となり、卒業生の方同士の情報交換の場として、また憩いの場として同窓会が活性化させることを祈念いたしております。もちろん大学として最大限の協力をさせていただき所存でございます。

また先に少しふれましたが、平成7年(1995)には、創立90周年を迎えます。あとわずか5年で21世紀を迎えるという節目に、近未来の教育・研究のキーワード「健康と文化」を具現化し、未来の担い手たちを私達の手で「教え」そして「育む」ことを目標として、大学の構成を一変するという大プロジェクトの着手いたしました。

すでに新聞等でご承知の方もいらっしゃるかと思いますが、大学の学部を健康科学部スポーツ科学科、栄養科学科と人文学部児童学科に改組し、あらたに本邦初の人文学部アジア文化学科を新設するというものです。これだけの大規模な改組・転換は他に例がなく、成功すれば私立、公立を問わず画期的なこととなります。この文部省の認可をいただくためにさまざまな交渉を重ね、申請を行っている最中でございます。

これが認可されますと、現在設置されております大学院健康科学研究科と短大体育学科及び生活科学科と併せて1,500名を超える学生の学びやとなり、このためには新しい校舎の建築計画もいたさねばなりません。

このような活気づいてきた中京女子大学ですが、まだまだパワーが足りません。外からなるパワー、応援団として一番心丈夫なのが、学園生活を体験された卒業生の皆様、同窓会のお力と考えております。もちろん在学生の保護者の皆様、教育後援会の方々も強力な応援団としてご尽力いただいております。

卒業生・保護者の皆様、そして教職員がひとつになって、われらの中京女子大学を盛り立てていただくことが、何よりも大切であると考えております。何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。

90年の重みと大同団結



副学長
飯塚 鉄雄

卒業生および旧教職員の皆様、お変わりありませんか。皆さんの母校は、益々健在です。高橋知予子会長から、入学式と卒業式での格調高いお話を拝聴するようになって、私も7年になろうとしています。勿論私の母校は、中京女子大学ではありません。私の母校は、小学校から大学すべて、この地上には存在していないのです。物理的な無存在だけではなく、その名義的存在さえ無い淋しさは、私の「母校喪失感」として味わう無念さでもあります。東京高等師範学校、東京文理科大学は、現在の筑波大学であると言っても、私には実感が湧いてこないのです。しかし皆さん、内木玉枝女史の創立理念により本学は、学園歌・学園の記章もそのまま受け継がれています。母校は敢然と一つ存在しているのです。私にとっての母校は、あえて存在するとすれば、およそ130年の歴史を持ち、キャンパスも不動のままの米国は、コロンビア大学とアイオワ大学大学院です。これら2つの大学からは、40年来欠かさず同窓会誌、寄付金や会費の養成、ホーム・カミング・デー(大学祭)への招待状が送られて来ます。

本学も、我が国の高等教育の歴史が始まって以来、最大の試練の中にあり、私立大学生残り等の戦いの最中です。SPOC(生き残り可能な唯一のチャンス)をモットーに、今日まで努力を続け、ようやくその曙光を見ることが出来るような段階に到達しつつあります。入学志願者の増加、我が国初の大学院「健康科学研究科」の創立(平成4年)、健康科学部(スポーツ科学科、栄養科学科)、人文学部(児童学科、アジア文化学科)への改組転換(平成7年度)等、益々進展しています。このように、ようやく静かに本学の90年の歴史の重みをじっくり味わい、戦前戦後の卒業生の皆様と共に、第3のステップへと歩みを進めようとしています。附属高校、附属幼稚園、附属研究所、外国姉妹提携校と共に、更なる百周年に向けて発展したいと、心から願ってやみません。

皆様の母校への愛着、訪問、ご支援をお待ちしております。

生涯教育の場としての大学



教授・学生部長
朝山 正己

平成3年に「大学設置基準の一部を改正する省令」が施行された。改正の主旨は、目まぐるしく変る社会の変化に対して、大学の教育や研究のあり方も、自己改革を図って、「時代や社会への変化」への対応を求めたものである。

例えば旧法での教育カリキュラムは、一般教養、外国語、保健体育そして専門教育科目に区分され、それぞれ何単位取得しなければならないか、細かく指定されていたに対して、新法では卒業に必要な取得単位数のみが決められているだけである。

こうした動向と併せて、大学入学時の年齢に当たる18歳人口が急減することから、各大学とも大学の改革に熱心に取り組んでいる。

本学では、先ず定員増による量的な拡大を実施し、昨年には大学院を開設して、質的な向上を図ってきた。また、平成7年度からは2学部4学科構想の下に改組転換計画を文部省に申請中であり、「体育と家政」から「健康と文化」の中京女子大学に変貌する予定である。

私は現在「学生部長として学生生活の質的向上に努める立場にあるが、価値観が異なり、しかも多様化する学生に対応するのはなかなか苦勞仕事である。多くの学生に接するにつけ実感することは、家庭教育とりわけ母親の子供に対する家庭教育の影響であり、学生の教育以前に親の教育の必要性を感じるものが暫々で、女子教育の重要性を痛感する毎日である。

ところで、平成7年は本学園創立90周年の年でもあり、今、大学では90周年記念事業を計画を検討中である。同窓の皆様にも特段の理解と協力をお願いを申し上げる次第である。

とりわけ、この90周年記念事業を通して、同窓会と大学との緊密な関係を築くべく方策を同窓会の役員の方々を始め、関係各位と模索をしたいと考えている。

今後の大学の発展には、在学する学生の教育の場があると同時に、地域や卒業生の方々にとっての生涯教育の場としての機能と魅力を持った大学に変貌することが、今後の大学には無くてはならないと考えるからである。

最後に、同窓の皆様方の御多幸を祈念申し上げます。

オリンピックを目指して ～ 活躍している選手達 ～

レスリングを通じ、かけがえのない人々に出会い、様々な経験を積むことができたことは、私の財産であると思います。

私が入学した当時、本校でもレスリングという競技は、ほとんど知られていませんでした。レスリングマットはない、練習相手もない、そんな状態から私の大学での競技生活はスタートしました。グラウンドの芝生の上で練習することもありました。そして1年、2年経過していくうちに、仲間や良き理解者が少しずつ増えていきました。

4年間で振り返ると、新しいものを開拓しようとする時の苦勞、苦樂を共にしてきた仲間との友情、そして世界チャンピオンを目指し、トレーニングを積んだ日々、陰から見守り励ましてくださった人々の事などが思い出されます。

また、世界選手権などの遠征先で、拙い英語を使い、身振り手振りで会話をしたこと、様々な国の人々と交流できたこと、そして試合の時はライバルでも、その場を離ればお互いの健闘を称え、励まし合い、次の大会でも必ず会おうと誓い合ったことは、決して忘れることはないでしょう。

そして、私は卒業の年にナショナルチームのコーチでもある主人と結婚し、来年の春には、1児の母になります。

世界には、妻であり、母親でありながら、競技者として活躍する女性が、数多くいます。レスリングの国際大会でも試合直後のママさん選手が、息を弾ませながら赤ちゃんをあやしている姿や、子供の声援にこたえる姿を見ることができます。私達もこれからは3人で、世界チャンピオンを目指し、そして叶うとも叶わないともわからないオリンピックへの夢を追いつづけていきたいと思っています。



栄 涼子
(平成4年度
体育学部体育学科卒)

今年で陸上競技を始め、11年目になりますが、自分はどこまで跳ぶことができるか、記録の更新目指して頑張っています。走高跳びで1センチでも高く跳びたいと思い、阪本孝男コーチのいるこの大学に入学しました。今までスムーズにきただけに、記録に伸び悩んでいます。大学一年目は、大きな大会としては、全日本インカレ優勝、初めての海外遠征も経験しました。2年にも全日本インカレ優勝し、記録も少しずつ伸びていった。年間の計画を立ててはいるものの、なかなか思い通りにいかず、2年で目標達成できなかった分、3年で取り戻そうとトレーニングに励み、力はつけてきた。でも、いくら力がついただけで、記録に結びつくわけでもないのが難しい。精神面もしっかりしとかなないといけないし、栄養面にも気を使っています。



3年の日本選手権には、狙った記録は跳べず、再度全日本インカレで挑戦した。しかし、目標の記録は跳べず、自分がとても情けなかった。自分のどこが悪かったのかよく反省し、次からどんなことを改善すればいいのか、いつも頭において前向きに考えている。今年目標の全日本インカレ優勝は達成できました。後は記録との戦いです。今までしていたことをしていても何も進歩がありません。何ごとにもチャレンジを持ち、一つずつ重点を置いて、マスターしていくことが大切だと思います。今しかできないことだから、悔いが残らないようにチャレンジしたいと思います。大学卒業後も跳び続けるつもりです。そして夢であったオリンピックに出場したい。それに出場するには、標準記録を突破しなければなりません。その記録を突破する為には、今以上の努力が必要だと思いますが、少しずつクリアーしていきたいと思っています。そして、夢で終わらないように実現したいです。

貞 広 千 波
(体育学部体学科3年
陸上競技部)

新会員の声

教師になって



水谷 明子

(平成4年度
体育学部体育学科卒)

「1年後の私は…」4年当初、頭をよぎった事柄でした。教員採用試験の難関を突破するために勉強に打ち込んだ3年半という自信とは別に「だめかもしれない」という不安が、そのように思わせたのでしょうか。あれからもう1年以上が経つのです。先生方や友人の支え、励ましがあったからこそ、今の私があるのだと感謝しております。

朝は早く、夜は遅くというのが、私の日常ですが、生徒と共に喜び、悲しみ合うことは、今の私にとって一番の宝物であると思います。特に部活動では、夏休みより新チームを任せられたこともあり、走り回る毎日です。

まだまだ駆け出したばかりで、未熟ではありますが、教師になったことを人生の通過点として考え、歩みを止めることなく、精進していきたいと思っています。

末筆ながら、母校のご発展を祈念いたします。

私の近況



佐伯華奈子

(平成4年度
家政学部食品栄養学科卒)

現在、私は地元の総合病院である武内病院で栄養士をしています。嵐の日々に追われつつ、給料upという餌につられたせいか幸運にも管理栄養士の国試をパスでき、少し落ち着いた今、また新たな壁にぶちあたっています。それは、Drや検査技師には「たかが検査データも読めない栄養士」と思われ、栄養指導先の患者には「先生」と呼ばれるこの身のギャップです。そして、なにより管理栄養士である以上、自分がカルテを手に指導していかなければならない現実。このギャップを埋めるには、自分の知識を延ばすより他ないわけで、今になって改めて教科書をひもといたりしています。(中には、買ってないのがあったりして…とほほ反省しています。)今は、卒業したてで新鮮な情報が唯一の武器となってくれていますが、時の流れに身をまかせていたら…。いやー、人生生涯勉強ですねー、自分のプライドがそう言っています。頑張るしかなかばいっっ!!

P.S. 給料倍増計画キャンペーン実施中

めざせ、月30万!!

種を蒔きたい



井尻麻理子

(平成4年度
短期大学部体育学科卒)

社会人ともなれば、勉強しなくてもよいと思われる人もいますが、今春より社会人となった私は、それが大きな考え違いだと、感じています。仕事をしていく中で、毎日が新しい事との出会いで、知識を吸収するばかりではなく、自分で考え判断し、行動する能力を身につけることが社会の現場で、求められていると感じるからです。

短大で学んだ専門性を生かそうと、就職して半年が過ぎましたが、毎日が大変充実しております。在学中に取得した「健康運動実践指導者」の資格をもとに、運動負荷試験、筋や神経の生理学、運動プログラムの作成から指導、測定等、知識が現場で身につくのが分かる今日この頃です。

現在の目標は、早く一人前のトレーナーとして、仕事ができるようになり、自分に自信が持てるようになることです。その為にも、専門ばかりに興味の対象をしぼらず、健康でバランスのとれた人間として、明日の楽しみと可能性のために、多くの分野に種を蒔きたいと思っています。いつまでも、自分の目標とするものを失わず、中京女子大学の卒業生として、頑張りたいと思います。

私の抱負

現在、私は故郷富山に帰り、幼稚園に勤務しています。学生の頃は、四大卒は幼稚園の採用が少ないと聞いて少なからず心配していましたが、運良く、自分の出身園で求人があり、就職させていただくことができました。

勤めてすぐは日曜日もぐったりという具合でしたが、一学期を終えて、ようやく自分の時間をもつ心のゆとりがでてきたように思えます。幸い、幼稚園には夏休みがあるので、じっくりとそれまでの自分の保育を振り返ることもできました。毎日、毎日、反省することばかりで、なかなか思ったような保育はできないのですが、それでも子ども達の顔を見ると、不思議とこちらも笑顔になり、頑張ろう！という気持ちにさせられます。それはきっと、私が子ども達に教えること以上に、教えられることが多いからなのだと思います。

まだまだ半人前の私ですが、子ども達にとっては一人の先生であることにかわりはありません。教育に後悔は許されないということを常に自分に言い聞かせながら、早く一人前の教師として、自信をもった保育ができるように努力していきたいと思っています。



沼田 祐佳

(平成4年度
家政学部児童学科卒)

社会へ出て

短期大学部生活科学科を卒業して早いもので半年の月日が流れました。

3歳の保育園の入園から始まった先生から学ぶという生活から、自ら社会の中で働くという生活に変わり、毎日が新しいことの連続で、一日一日がとても充実しているように感じられます。

今までにも、働くということはアルバイトで経験していましたが、副業という形ではなく、社会人として働くというのはそれらとは全く違い、半年間で、少し自分が成長したのではないのかと思っています。

この半年間で私が身をもって理解したことは、学校生活だけが勉強ではないということです。学生の間は、意外にこのことに気が付かないもので、私もその一人でした。しかし、これは随分と狭い世界でしか物事を見ていなかったということが、最近になりわかりました。

現在、私が職場にただでトラブルメーカーとなっていますが、少しでも仕事かできるように努力していきたいと思っています。



大竹 紀子

(平成4年度
短期大学部生活科学科卒)

歓迎 新入同窓会員

	平成2年度	平成3年度	平成4年度
体育学部体育学科	90名	72名	74名
家政学部児童学科	68名	70名	70名
家政学部食品栄養学科	48名	53名	49名
短期大学部体育学科	106名	121名	117名
短期大学部生活科学科	104名	108名	163名
合計	416名	424名	473名

卒業生の活躍

締め括り



北野美登志

(昭和31年
短期大学部体育学科卒)

あれから36年。当時は、新宮市から名古屋まで行くには2日がかかりだった。紀勢線が全線通っておらず、熊野～尾鷲間は、国鉄バスで3時間も要した(現在約30分)。学校は東新町にあり、狭い敷地に古い建物の印象が、今尚、頭に浮ぶ。片田舎から出てきた私は、西区に下宿した。電停ならどこでも東新町行きの電車が来るものと、1時間程待った時、通りがかりのおばあちゃんに尋ね、初めて乗り換えの必要を知った。勿論最初から大遅刻。今でこそ明かす思い出話の一つでもある。

当時の学長は「内木玉枝」先生。現在では、女性の管理職は目にも耳にも珍しくないが、その頃女性の学長先生とは、私にとって珍しさと驚きでもあった。先生のお人柄は、常に女性のもつ特性が光り、素敵な魅力として、現在でも鮮明に浮んでくるのは、私だけではなからう。

昭和32年の春、三重県教育委員会より、5円葉書で採用試験の合格通知が届き、教師生活が始まった。高校、中学畠で良き同僚に恵まれ、また家族の支えを受けながら今日に至っている。しかし後2年で退職という2文字に出合う。正に歳月の流れは急流だ。

ご存じのように、本年度は、何回目かの教育改革完全実施の節目の年である(中学校)。

平成3年度、文部省の海外派遣研修として、ハンガリー・オーストラリア・フランス等を視察した。訪問先の学校でも、女性の管理職は珍しくなかった。確かな理念を基盤に、個性豊かな教育実践が展開され、笑顔で迎えてくれた子供達、校長先生にまつわる子供達の目がさらに澄んで、学校がいかにも安住の地であるかのように感じられた。自由に選べるコース別指導のもたらすものなのか。ここでは「登校拒否」の意味が全く理解されなかった。

教職生活の締め括りとして、やはり学校とは、「楽しいところ、意外性のあるところ」に仕立て上げなければと、今日も念じながら拙いペンを置く次第である。

最後に、同窓会の皆様の益々のご健勝、ご活躍をはるかに祈り申し上げます。

(現在、三重県熊野市立飛鳥中学校で校長として勤務)

32年間教育に生きて



畔柳千穂子

(昭和35年度
短期大学部体育学科卒)

最近「リストラクチャリング」という言葉が頭から離れない。昭和36年4月1日教師として第1歩をふみ出し、日本の高度成長時代、教育に正面からぶつかり、33年目を迎えました。昭和から平成と時代は大きく変わり、教育も生涯学習社会へと移行しつつあります。教育に対する考え方、教師の役割、家庭や社会の役割について、今、「リストラクチャリング(見直し、再構築する)」しているのが正直なところですよ。

愛知県に5年間、結婚を期に昭和41年から静岡県に勤務し、現在に至っています。体育の教師として中学校へ15年間、教育委員会へ体育の指導主事として4年間、小学校へ13年間、その間教務主任を6年間、教頭を3年間、教師として人生の大半が過ぎようとしています。長男、長女の誕生、両親、姑舅の他界、人生いろいろありました。その時、その時、体育でできたえた身体と精神で乗り越えてきました。教育一筋に生きられたも、そのおかげだろうと思います。しかし、昨年、人生もっとも大きな試練に出会い、立ち直るのに必死です。私も主人もスポーツずきで健康そのもの、医者には縁がなく、働いてきました。昨年11月主人が「癌」で56歳で他界してしまいました。あっという間の出来ごとでした。入院して、わずか40日間でした。生きる気力もなくなるほど打ちのめされました。二人の子供と、主人の供養をしながら、残された人生を、主人の分まで教育に生きることを決心するまでには時間がかかります。

平成5年4月から、再び静岡県教育委員会勤務となり、社会教育課主席指導主事として、新しい領域にたずさわり、もっか勉強中です。仕事に打ち込むことが、教育に打ち込むことが、主人と共に生きているように思え、心が安まるのです。

33年目、時代の変化に伴い、教育体系も変わりつつある現在、自分の教育理念を再構築しなくてはと思い、1年1年を大切に生きていきたいと考えています。

教職40年の感動

はじめに、私の教職生活を振り返ることを、お許しください。

昭和16年3月、私は当時の中京裁女高師科を卒業すると同時に、その頃の女学校へ就任した。それより5年間に、戦争は日々激化し、女学生も勤労働員となり、軍需工場の学生寮に入り、兵器の生産に励みながら、夜間に勉強をした。機銃掃射を受けた事もあり、空襲のたびに防空壕に出入りするといった日が、終戦まで続いた。

戦後は婚姻により、大分市で家庭を持つ事になった。昭和22年4月、6・3制の新教育制度の発足に伴い、新設の中学校に赴任した。戦後の不備な施設設備の中で、新教育課程による民主教育の指導に専念した。しかしその後、めまぐるしい日本の経済の成長によって、教育環境も整備されて来たが、反面時代の変遷も激しく、指導要領の改訂が繰返される中、当時の生徒の教育に情熱を注いだものであった。昭和44年4月、計らずも、中学校の教頭に任命された(当時の女性教頭は、県下で6名、現在は43名)。学校長を補佐し、学校運営に就任した(当時の女性校長は、県下で7名、現在は21名)。学校経営に全力を傾注し、特に、地域に即した児童生徒の育成に、全職員と共に精神した。昭和56年3月に退職。教育者としての半生を児童生徒の育成に、尽力できたことは、この上もない幸せであった。

また私は、平成5年春の叙勲で、教育功勞により、勲五等瑞宝章受賞の榮に浴することが出来た(当時72歳)。去る5月18日、皇居の奉明殿において、天皇陛下より

「文教・教育行政に貢献された皆様方、長い間本当にご苦勞でした。今後も益々健祥で暮して下さい。」

とのお言葉を賜り、その瞬間、戦前・戦中・戦後の激動の40年も忘れる思いでした。



長かった40年の教職歴も、時代に適応した児童生徒づくりに精進ができ、また微力ながら、教育環境整備にも盡力出来た事を、振り返りつつ、この度の受賞の榮 誉をかみしめている昨今です。

これも単に、中京高等師範下で、三ヶ年の基礎教育のお陰と、深く感謝しています。

最後に、近況の報告です。学校卒業以来40年を教職一筋で生活をして来たので、退職後の現在、少しでも地域にご恩返しのため、皆様の要望により、地域老人会の副会長、仏教婦人会会長(真宗大谷派)、年金生活者に大切な退職公務連盟地区婦人部長など、微力ながら、お役に立てるよう願っている毎日です。



仲野 孝子

(昭和15年度
高等師範科卒)



大学講師となって



中島美智子

(昭和54年度
体育学部体育学科卒)

大学を卒業後、岡山大学大学院を修了し、現在の大学（大阪体育大学）に就職してから今年で11年目を迎えます。授業は、ダンスの実技と理論を担当しています。課外活動では創作ダンス部を指導し、毎年1回の単独公演をはじめ、様々な公演・コンクールへの参加と、年中生と共に活動しています。

5年前に大学のキャンパスが、来年度開港の関西新空港の近くに全面移転し、それと同時に他大学に先んじてカリキュラム改革が行われ、コーチ教育コース舞踊専攻が開設されました。ここでは、より専門的な知識を身につけた教育者と表現者（将来の芸術家）を養成することを目指しています。そのためにより専門的な教育に携わることができるようになりました。教育と研究の充実を図るために、アメリカでの在外研修の機会を数多く頂きました。実技研修では、アメリカモダンダンスの歴史を築いてこられた元 Jose Limon 舞踊団の Betty Jones に師事し、リモンテクニックの指導を受けました。今年9月末に、このテクニックの指導書の翻訳をベースボールマガジン社から出版することができました（図説 ホセ・リモン、ダンス・テクニック）。研究の分野では、ダンストレーニングの科学的なアプローチ、さらに舞踊の行動学的な課題に取り組んでいます。

在学中は創作ダンス部に所属し、部の創設に携わりました。毎年夏に神戸で開催される全日本高校・大学ダンスフェスティバルにおいて、今年母校の創作ダンス部が特別賞を受賞しました。その活躍ぶりを本当に嬉しく思うと同時に、ここまで発展させて下さった後輩の皆さんの努力と、先生方の暖かいご協力とご指導に感謝しております。

在学中からダンス、ダンスと生活しておりましたが、現在もダンス三昧の生活をしています。

母校の益々のご発展と卒業生皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り致しております。

自分を信じて



田口 恵美

(平成3年度
短期大学生活学科卒)

短大卒業後、ほとんどの人が就職した中で、私は以前より考えていた看護の道へ進むことを決意し、現在は知多市立看護専門学校で2年生として通学しています。

短大2年生の頃は、進学となると、経済的なこと、不合格の場合を考えていっそ就職をしまおうかと就職活動を行っていましたが、結果は思わしいものではありませんでした。そんなこともあり、私は必ず看護婦になりたい。人のために働くことができ、手に職を持ち、やりがいのある仕事を目指したいと思ったのです。

その後、私は就職の内定している友人に囲まれ、「自分がもし入試に失敗したら」という不安と戦いながら、入試に挑み、無事合格できました。周囲の方々の応援や励ましは、とても力になり、うれしかったです。

入学後、一年生の時は、ほとんど講義で、テストだけでした。本一冊がテスト範囲だったり、B4版の紙に10枚程度のエンドレスのテストだったり、技術（注射、血圧測定、シーツ交換など）のテストのために授業後に練習したりしました。とても自分にはできないと思っていたことも、なんとか今のところ、乗り越えることができています。

看護学校に入って、念願の載帽式を今年の5月11日に終えることができ、ナースキャップをもらうことができました。今まで出た儀式の中で一番感動、感激しました。式の間は、実習中にあった患者さんの顔や言葉が浮んだり、看護婦を目指す者として、これからも頑張るって学ぼうと決意を新にしました。

現在も、2つ年下の方たちとともに、看護について日夜遊びを深めています。しかし、自分が考えていた以上に看護の道は難しく厳しいものだと思いつつありますが、その分、やりがいも大きく、充実した毎日を送っています。

大学院生から

私が初めて中京女子大学を訪問したのは、1988年であった。その後、中京女子大と韓国の梨花女子大が姉妹結縁関係を結び、1989年に最初の交換留学生として、1年間本学校で学ぶことができました。胸がつまって、震える気持ちで初めて日本語の学院へ行った。片言混じりの日本語で話を通じた時は、自分も信じられなかったし、とても楽しかった。しかし、それも一時、勉強すればするほど難しくなる日本語を実感しながら、放棄したい時もあった。月日が過ぎ、日本へ出国する日が来た。家族、そして友だちと別れる淋しさもあり、日本で出合う新しい友だちや生活への不安が大きかった。1時間40分位で名古屋空港に着いた。本当に韓国と日本は近い国であった。迎えに来てくださった松岡先生とは、それ以後ずっと、バスケットクラブの活動で仲良くしていただいたし、いつも研究室で日本語を教えていただいた。先生の影響で、私は関西弁を使っていると友だちから言われている。「えっ！私が方言を…分からない。」やさしかった先生方や友だち、特に日本のママ「溝口先生」、皆さんのおかげで、私はとても明るく楽しい生活を送ることができました。とても良い機会を持った私は、日本の文化や生活習慣、そして言語、宗教などを学び、いろんな経験をさせてもらった。1年間の留学を終え、その時間はとても短かったと思った。もし、次の機会があれば、もっと専門的な知識や言語の勉強が是非やりたいと思っている。

卒業後1年経って、大学院のたよりがあがり、自分がどこまで自立していく力があるのか、自立する力があれば夢はすぐには成しとげられなくても、願ったとおりになるだろうと思って、心を決めて反対する父を説得して、承諾をもらった。また勉強するチャンスがあたえられたことに本当に感謝している。わが国はじめての健康科学研究科への入学、優しく、時には厳しい先生方のご指導で1年間学び、現在論文学期を残している。これからも頑張って、良い修士論文を提出できるように努力したい。



朴 順 英

卒業して半年が過ぎようとしています。皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。

私は、本学大学院健康科学研究科へ進み、勉学に研究にと頑張っています。5月には、管理栄養士国家試験を受験し、友人と共に合格したことは一生の思い出となりました。西岡先生をはじめ諸先生方に厚く御礼申し上げます。

現在、江藤先生指導のもと、「実験、分析、コンピューター、データの整理」など、忙しい毎日を送っています。今は、一日も早く、実験結果が得られることを願っています。



佐藤 祐子



大畑 千鶴



大学に入学した頃は、大学院への進学は全く考えてはおらず、卒業後は栄養士として就職し、管理栄養士の資格を取ろうと思っていました。

私が進学を決めたのは、4年生になってからです。3年でゼミを決める時、楽なゼミに入り、アルバイトをしながら、学生生活を楽しもうとも考えましたが、今しかできないこともあるのではないかと思います。結局選んだのは、講義後8時・9時頃まで実験をするという厳しいゼミでした。4年になり就職活動を始める頃、もう少しいろんな実験をやりたいなと思い始め、ちょうど中京女子大学に大学院ができたこともあり、進学を決めました。早いもので、大学院に入学してから、もう半年が過ぎてしまいました。今は、栄養の知識や他に、運動についても勉強をし、両方の指導ができるようになりたいと思っています。

しかし、やりたい事と、やらなければいけない事が多すぎて、2年間という時間では、とても間に合わないように感じています。

卒業後は、今まで学んできた事が、十分に発揮できるような職業に、就きたいと思っています。

私に、この様な貴重な機会を与えて下さった先生方と、私を遠くから支えてくれてくれている家族に、感謝したいと思います。

宮崎 幸子

私が、スポーツ障害について深く関心を持つようになったのは、二女を出産して腰痛に悩み、ヨガを始めたのがきっかけです。当時マスコミで、スポーツ教室の事故を取りあげ議論されていました。私もヨガのインストラクターをやりながら、もう一度学んでみようと思い、大学へ、さらには大学院へと進んできました。現在、生涯学習の高齢者を対象にした「余暇意識と活動」の研究を教授のもとですすめております。また、刈谷高校で保健体育の講師をしながら「思いやりの大切さ」、「指導の難しさ」「運動と勉強の両立」などを生徒や先生方から教えられています。大府市のイキイキプラザにおいても、生涯学習活動の実践をしながら、充実した毎日を送っております。

今年は、宮崎県での世界ベテランズ選手権大会や、千葉県での全国スポレク祭に出場するためのトレーニングをしていますが、「好きなことばかりできていいなあ」と、チョッピリ苦情をいって協力してくれる夫や元気な子供達に感謝しています。



院生入学式



実験の様子

同窓会支部からの報告

九州支部熊本同窓会

平成4年1月15日 午後7時より

会場 五峯閣

私達、熊本同窓会は、平成元年の夏頃に誕生しました。大先輩の古閑ヒサ子先生（75歳）を中心に、12～13名が年に、2回から3回程集まり、大変にぎやかな会を開いています。しかし、発足までの古閑先生のご苦勞には、並々ならぬものがあつたことを、こうして数回の会合を経た今日、感謝の念で偲びます。回を重ねるごとに、みんな打ち解けてきて、こんなにユニークな会に発展するとは、全く思いもしなかったことです。

さて、同窓会の当日です。私は、午後6時半頃に会場のロビーに着き、キョロキョロしていますと、すぐに元気の良い声で、名前を呼ばれました。振り向くと、西岡さんでした。

「さすが会長、それに今宵の幹事殿、心がけが違いますね。」

その後、古閑先生が、黒の帽子・紫の大きなメガネ・黒の皮のコートにスラックスというシックな装いで、御出座しになりました。

「先生ステキ!!まるでアメリカ帰りですね。」

という私の言葉に先生は、

「プール帰りたい。」

とのご返事。現在も先生は、あのベルリンオリンピックの前畑さん達と同様、毎日泳いでおられます。そこへ、

「なあって、こんな所に居たのー。私、ずーと探していたのに。」

と、別のコーナーから、野口さんが現われました。しばらく立ったまま、ガヤガヤ冗談を飛ばしながら会話が続き、そんな所へ、

「皆様、本当にお久しぶり。御無沙汰しておりました。」

という挨拶が次々に交わされ、内田さん、田口さん、光永さんが到着され、レストランへと席を移しました。すぐに乾杯となるかと思いきや、ごちそうを前に、今年熊本で開催される九州大会の打ち合わせが始まりました。（真面目でしょう。）

九州在住の卒業生の住所録を見ながら、連絡方法や日程など、細やかに話し合いがなされました。

その後、会食に移り、ビールもかなり追加されました。話といえば、大学時代のこと、家庭のこと、職場のこと、いつもながら話題が尽きません。午後9時には終了ということで、歩いて2次会の会場へ向いました。そこは、もちろんカラオケ付きのスナックです。居合わせたお客さんから、

「何の集団ですか？」

と、いつも聞かれるのも当然のことです。老いも若きも、キャリアウーマン風から専業主婦風までと、言いたい放題、お腹の皮がよじれる程、笑いころげながら、食べながら、唄いながら…。そのうちに、そのお客さん達とも意気投合して、デュエットやダンスにまで発展するのですから、大したパワーだと思いませんか。時計が午後11時を回った頃、やっと御開きになりましたが、帰りのタクシーの中でも、3次会もどきの高まりを見せながら、4月の再会を楽しみにわかれしました。

この様な熊本同窓会ですが、九州大会を是非成功させたいと思います。どうぞよろしくお願い致します

（平成3年2月 書記 今村かおる）

尚、九州大会は、平成4年8月8日～9日、午後6時から、五峯閣で行なわれ、無事成功し、終わりましたことを、お知らせしておきます。



北京体育学院との 姉妹校提携協定の成立について

国際交流部長 藤井真美

1. 学長、姉妹校提携協定書に歴史的署名

1993年5月26日、本学図書館会議室において名門北京体育学院（王世安院長）と本学との間に、姉妹校提携に関する会議が開催されました。

会議の結果、両校の意見が一致し、副院長張思温先生と谷岡学長が協定書に署名され、教授会の承認を経て、正式に交流契約が発足致しました。心からお祝い申し上げたいと思います。

提携内容は、①専門家の交換と共同研究や講座の開催、②学生と教員の対等交流、③体育競技と合同合宿トレーニングのための交流、④体育関係の会議や講習会・学術討論会等の開催、⑤資料、紀要、その他体育関係情報の交換などです。

2. 「世界の大国」中国に目を向けよう

ご承知のように、中国は人口約12億の大国で日本のすぐ隣に位置し、社会主義国家のままで自由経済を進めている、GNP伸び率No.1の未来発展型超大国であります。

一方体育・スポーツ界においてもオリンピックを初め、世界大会での活躍ぶりは、ニュースを通じて周知のとおりであります。

また、北京体育学院は、上海体育学院に次いで設立された国立の名門大学で、学生数（男女共学）も本学の10倍程と多く、卒業生の60％は大学の教官として就職するといわれます。したがって、姉妹校は世界で13大学を教え、日本では、日体大に次いで、本学が二番目ということです。

3. 学生の中国留学のご理解とご協力を

日本人は、欧米への留学希望者は多いが、アジアには少ない傾向があります。その理由の一つに語学（韓国語や中国語）ができないことが上げられます。しかし、アジアは英語でもよいのです。毎年秋には、留学希望者に対して英語力、人物、留学目的等を審査して、翌年の留学生を決めることになっていますので、ご父兄や同窓生の皆様の温かいご理解とご協力を賜りたいと存じます。



提携の為本大学へ



調印式の様子



無事に調印がすんで



調印が終ったの交流会



卒業生も少しお手伝い



提携にお力添え下さった胡揚先生



名古屋城を観光する



名古屋を立つ前に

平成6年度入学者選抜試験実施要項

入試区分と入試日程

区 分	学 部	出 願 期 日	試 験 日	試 験 場	合 格 発 表	入 学 手 続 日
推 薦 入 試	体 育 学 部 家 政 学 部 短 期 大 学 部	5 年10月 4 日(月) ～10月15日(金)	10月24日(日)	本 学	10月29日(金)	5 年 11月12日(金) まで
	体 育 学 部 家 政 学 部 短 期 大 学 部	5 年10月25日(月) ～11月 8 日(月)	11月14日(日)	* 本 学 那 覇	11月19日(金)	5 年 12月 3 日(金) まで
一 般 入 試	体 育 学 部 家 政 学 部	6 年 1 月 7 日(金) ～ 1 月21日(金)	1 月29日(土)	本 学 那 覇 広 島 金 沢 東 京	2 月 5 日(土)	6 年 2 月15日(火) まで
	短 期 大 学 部		1 月28日(金)			
	センター 試験利用	体育学部(定員の一部) 家政学部(定員の一部)	6 年 1 月17日(月) ～ 2 月 4 日(金)	大学入試センター試験 受験(10～11ページ参照)	2 月12日(土)	6 年 2 月22日(火) まで
	2 次	体 育 学 部 家 政 学 部 短 期 大 学 部	6 年 2 月21日(月) ～ 3 月 8 日(火)	3 月15日(火)	本 学	3 月24日(木)

合否の結果は、合格発表日の午前9時に学内掲示（一般入試の2次を除く）をすると同時に速達郵便をもって本人に通知する。

*一般推薦入試の地方試験場（那覇）は、家政学部のみ。

学部・学科と取得できる資格

学 部	学 科	定 員	コ ー ス	取 得 可 能 な 資 格	
大 学	体 育 学 科	100名	スポーツ科学コース 生涯体育コース	学士(体育学)、高等学校教諭・中学校教諭1種免許状(保健体育)、健康運動実践指導者認定試験受験資格	
	家 政 学 部	児 童 学 科	50名		学士(児童学)、小学校教諭1種免許状、幼稚園教諭1種免許状、キャンプ指導者初級資格
		食 品 ・ 栄 養 学 科	50名		学士(食品・栄養学)、高等学校教諭・中学校教諭1種免許状(家庭・保健)、栄養士免許証、管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員および食品栄養管理者任用資格
短 期 大 学 部	体 育 学 部	100名	スポーツコース ヘルスデザインコース	準学士、中学校教諭2種免許状(保健体育)、健康運動実践指導者認定試験受験資格	
	生 活 科 学 科	150名	生活科学コース 生活デザインコース 生活情報コース	準学士、中学校教諭2種免許状(家庭)	

※編入学については、該当学科に欠員があるときは受け付ける。詳細は、渉外課入試係に問い合わせること。

平成 6 年 度
大学院健康科学研究科（修士課程）

学 生 募 集 要 項

研究分野

専攻名	研 究 分 野
健康科学専攻	健康体力学・健康栄養学・健康運動学・健康リフレッシュ学

取得資格

本大学院の修士課程を修了した者が、教育職員免許法の定めるところにより、取得できる教育職員免許状の種類と教科は次のとおりとする。

研 究 科 名 (専攻名)	基 礎 資 格	取得できる教職員免許状の 種類と教科
健康科学研究科 (健康科学専攻)	中学校教諭一種免許状（保体）	中学校教諭専修免許状（保体）
	高等学校教諭一種免許状（保体）	高等学校教諭専修免許状（保体）
	中学校教諭一種免許状（保健）	中学校教諭専修免許状（保健）
	高等学校教諭一種免許状（保健）	高等学校教諭専修免許状（保健）

区 分	出 願 期 間	試 験 日	試 験 場	合 格 発 表
1 次 募 集	5 年 9 月 16 日(木)～9 月 25 日(土)	9 月 30 日(木)	本 学	10 月 4 日(月)
2 次 募 集	6 年 1 月 22 日(土)～2 月 3 日(木)	2 月 8 日(火)	本 学	2 月 12 日(土)

中 京 女 子 大 学

〒474 愛知県大府市横根町名高山55

電話（0562）46－1291(代)

（J R 東海道本線大府駅からバス約10分 中京女子大学前下車）

昭和30年度中京女子短期大学部体育学科卒クラス会

今年の夏はことのほか雨がながく、7月は湿め湿めとした月でした。その7月24日、25日の両日、私達の同期会は、例年通り行われました。奥三河の秘湯、湯谷温泉での一泊、自然の大地に恵まれ、小雨にけむる木々の緑が川面様に広がり、心なごむ一時でした。次の日は、鳳来寺山頂までバスで登り、老杉がうっそうと茂る中の石段を一つ、一つ踏みしめながら、時には石の苔の美しさに見とれ、昼食場へと着き、山菜民芸料理をかこみ、お互いの健康を気使いつつ、来年の有馬温泉での再会を約し、楽しかった2日間、「あっ」という間に終わりました。

母校の益々のご発展をお祈り致します。

上杉 慎 荻本 孝子



役員からの一言

- 伝統ある母校の同窓会役員の一員として卒業生の皆様に切なるお願い申し上げます。御自身の夢ある将来の為にも同窓会への積極的参加により、縦横の繋がりが計り知れない力となりすばらしい人生を支えてくれます。どうぞ御出席下さいませ。
上梨 敦子
- 教員として就職してから本年3月で定年退職しましたので、役員を若い方にバトンタッチしたいと希望しています。在職中の御厚情に感謝し学長先生始め大学の皆様と同窓会の発展を祈念します。
山口ひな子
- 人生ふり返れば、色々な思い出があります。中京女子大学同窓会のあることも、思い出して下さい。会員の皆様のご支援、ご協力で大きく、大きく発展することを願って居ります。
木村 ミエ
- 90周年にむけて、それぞれの立場で頑張りたいと思っています。みなさまのご協力をお願い致します。
荻本 孝子
- 「大きな役割のある、お手伝い」と自覚して、前向きに楽しく、やらせて頂きました。
太田 昌代
- 今年四月大学院設立、卒業生にとっては喜ばしい事です。それに比べ二年に一回の総会出席率がいま一步、学校の発展と比例し同窓会も諸先輩、後輩共々に年代を超越して、楽しい語らいの場を作り発展させたいと存じます。ご協力下さいませ。
杉本扶実子
- 同窓会に出席された皆様からは、次の再会を楽しみにしていますと、お別れします。一度総会にお出かけ下さい。楽しい出会や、新しい感動が残るのではと思います。微力ですが会の発展にお手伝いをさせていただければと思っています。
螺 澤代

お願い

総会が近づくと同窓生の皆さまのご活躍を聴くたび胸おどる思いです。また反面、名簿の整理をしていますと、なんと、住所不明で返却される封書の多い事、残念です。どうぞ、住所変更・改姓されましたら、本部へ卒業年度 学部 学科名 を明記しお送り下さいますようお願い申し上げます。



編集後記

今年の夏は研究室で同窓会の仕事の手伝いをして過ごす結果になった。うれしいことに、卒業生の瀬戸今日子さん（昭和57年度家政学部児童学科卒）が名簿の整理等、手伝いに来てくれたことは何よりうれしい。このように卒業生が母校に協力していただけることを感謝している。同窓会事務局も独立して、正常化へと努力しているものの、まだまだ片手間での仕事では成功は無理だが、このように卒業生から意欲的に協力してくれ、また、そういう人達が増え、同窓会を支えてくれるようになることを願っている。
(溝 口)